



現実的になったTPP交渉への参加



改修が予定されている横町橋（鉢形）



安全な給食のために

寄居町の今とこれから 一般質問

3月定例会の一般質問には、10名の議員が登壇しました。
質問項目と内容（抜粋）をお知らせします。

この項目について町の考えを聞きました

町の姿勢・考え

町歌の制定（神田議員）
安倍新政権の諸政策（峯岸議員）→P.13
米・メアリスビル市への現地視察派遣（峯岸議員）
婚活支援（瀧澤議員）→P.15
投票率向上の対策（鈴木議員）→P.15
人口減少と超少子高齢社会に向き合う施策（大平議員）→P.16
ホンダ車購入促進補助金（津久井議員）

まちづくり

企業進出等を町の繁栄につなげる対応（大平議員）
寄居PAのスマートインターチェンジ開設（原口孝議員）

環境・安全・防災

原発事故による放射性物質への対応（神田議員）→P.12
「防災・減災ニューディール」の推進（佐藤議員）→P.13
屋根貸しによる太陽光発電事業の導入（佐藤議員）
市民後見人の養成等（大久保幸議員）→P.14
住宅用太陽光発電システム設置費補助（瀧澤議員）
住宅用太陽光発電システム設置費補助廃止（津久井議員）
寄居エコハウス推進事業（津久井議員）→P.16

福祉・医療・高齢者対策

子宮頸がん予防対策（佐藤議員）
全要介護認定者への障害者控除受給制度（田母神議員）→P.14
無料・低額診療（田母神議員）
健康づくり推進員制度の立ち上げ等（大久保幸議員）

子ども・教育

たくましく生きる力をはぐみ絆を深める寄居教育（田母神議員）
アレルギー疾患の子どもへの対策（鈴木議員）
小中学校の全教室へのエアコン設置（津久井議員）
小学校・中学校の英語教育（原口孝議員）→P.17

観光・町のPR

絵本と童話の森公園（津久井議員）
寄居観光クリエイション（津久井議員）

※1人1項目を要約して掲載。全文は会議録をごらんください。会議録は印刷でき次第、町立図書館で読むことができます。

次のページは「障害者控除・市民後見人・婚活支援・投票率アップ」に関する一般質問

憲法改正及び憲法第96条改正の見解は



答弁→ 歴史的経緯もあり、高度なテーマと認識しています

問 昨年末の総選挙で誕生した安倍政権の諸政策は、寄居町政にも多大なる影響を与えると思われます。まず憲法改正について、そして憲法第96条改正という手法について、町長の見解を伺います。

答 憲法については歴史的な経緯もあり、その改正は高度なテーマであると認識しています。

問 町長は憲法に対して護憲・改憲・加憲・創憲等、どのような考え方でしょうか。

答 町政を担うものとして、寄居町をすばらしい町にしていくよう、最善を尽くします。

アベノミクスとTPPへの見解は

問 デフレ脱却を目指した大胆な金融緩和、機動的な財政出動、成長戦略というアベノミクスについての見解を伺います。

答 景気対策のトリガーとして大きな期待をしますが、その後の経済成長が重要であると認識しています。

問 日米首脳会談を経て、TPP交渉への参加が現実的な問題となってまいりました。この問題への見解を伺います。

答 国家間外交に大きく依拠する案件であり、協定内容を正しく理解するだけでも、高度な専門的知見を有することが求められます。

学校週6日制、町の考えは

問 文科省が検討を始めた、土曜日に授業を行う「学校週6日制」について伺います。

答 文科省より、学校週6日制の方針が出たら、そのように対応していきます。

命を守るための公共投資を



答弁→ 国のマニュアルに基づき総点検を進めていく考えです

問 東日本大震災から2年がたちました。大震災後、首都直下地震や南海トラフ巨大地震の発生確率が高まり、被害想定も見直される中、昨年12月の中央自動車道・笹子トンネルの天井崩落事故で明らかになったように、高度経済成長期に集中的に整備された日本のインフラの多くは今、老朽化の危機に直面しています。そこで、道路や橋の総点検の実施状況について伺います。

答 施設の安全性については、一般業務の中で、また、各行政区の役員の皆様と連携して管理に努め、道路や橋などの機能を確保しています。今後、国のマニュアルに基づき、総点検を進めていきたいと考えています。

問 老朽化した道路や橋などの「長寿命化修繕計画」について伺います。

答 橋梁の長寿命化については、平成26年度に計画を策定したいと考えています。また、平成25年度には橋梁点検を実施していきたいと考えています。

学校施設の安全性の確保は

問 学校施設は子どもの学習、生活の場であるとともに、災害時には地域住民の避難所としての役割を果たすため、その安全性の確保は極めて重要であると考えます。そこで、窓ガラスの飛散防止のフィルムの貼付や、耐震ガラスの設置について伺います。

答 学校施設の非構造物の耐震化を検討する中で、耐震性のあるガラスや飛散防止用フィルムの導入も研究していきたいと考えています。

インフラ整備
憲法改正

学校給食食材の放射性物質検査について



答弁→ 引き続き同じ検査項目で検査を実施します

問 東日本大震災に伴う原発事故以来、さまざまな問題が浮き彫りになっていることは、以前から議会の場で提議してきたとおりです。寄居町が、早くから空間放射線量の測定や給食の「丸ごとミックス」検査を実施していることは評価すべきことであると考えます。

現在行われている給食食材の「丸ごとミックス」検査に関して、今後の考えを伺います。

答 平成25年度も24年度に引き続き、同じ検査項目で、民間検査機関及び県と町での検査を実施する計画です。

食材の単品検査をしては

問 丸ごとミックスだと万が一の場合、原因食材の特定ができないので、食材の単品検査にしてはどうでしょうか。

答 ミックス検査と、江南行政センターの検査器と、寄居町役場にある消費者庁から借用している検査器で、食材の単品検査を行っています。25年度も同様に行っていきます。

問 現在の検査では検出限界値レベルが高いため、必ずしも安心とは言えません。精密検査の費用増を避けるなら、現在の月4回の検査を1食ごとローテーションで月2回程度にする方法もあります。あるいは、検査回数を減らしても検出限界値を下げるべきだと考えます。

答 ミックス検査について、検出限界値が下げられないか研究します。

学校給食